

寛文三年三月歿。五代太閤寛文三年六月十村役となり、正徳二年七月歿。六代太閤正徳三年十月十村役となり、寶曆十年七月歿。七代五兵衛寶曆十年十二月から天明二年六月まで十村役を勤め、老後寛休といひ、八年十月歿。八代五兵衛は天明二年六月十村、寛政九年七月御扶持人並、文化三年十二月御扶持人となり、七年六月歿。九代太閤は養子で、文化

十二年平十村となり、十一年八月歿。十代太閤も養子で、文政元年十二月平十村、四年七月年寄並、天保十年御扶持人並、十一年正月御扶持人十村となり、苗字を許されて當摩太閤と稱したが、弘化二年組下長崎村百姓買返高の件に就き、公事場に驅込訴をなして入牢を命ぜられ、翌年正月に及んだ。歿年不詳。

十一代五兵衛弘化四年平十村を命ぜられ、嘉永元年太閤右衛門と改め、五年九月役儀免除、文久二年七月歿。十二代太閤は當分裁許として廢藩に會した。

ダイム 大夢 ↓ナホヤマダイム 直山大夢。

ダイメイ 代明 ↓イハキシロ 岩城司嶋。

ダイモン 大門 鹿島郡矢田の内の小字。

タイモンクベン 對問愚辯 一册。文化九年六月富田景周が或人の問に答へて、加賀藩の人持・年寄・家老などの各目に就き辨じたもの。同著の賀澤卿大夫考徴は、更にそれを詳述したもので、前に或人と言つたのは、長連愛が家臣田中尚實を以て問はしめたのであることを明らかにしてある。

ダイモンジャサプロエモン 大文字屋三郎右衛門 金澤の町人。その由緒書に據れば、元祖大文字屋源兵衛は、小松大文字町に居住

し、秀吉の越中佐々成政征伐に出馬の際には、その旅宿を命ぜられて則貞銘の刀一腰を拜領し、又前田利家の旅宿を勤めたこともある。次いで領主丹羽長重から能美郡の天秤職を命ぜられ、前田利長も亦能美郡天秤職たる判書を賜うたが、九右衛門の時金澤に引越し、西御坊町の居屋敷に住することになったとある。

ダイモンヤマ 大門山 石川郡の東南にあつて、越中に跨る。高さ一五七二米。地質石英粗面岩。登路倉谷から約一二杆。

ダイヨウエシヨウ 大用慧照 金澤曹洞宗寶圓寺十四代の住持。生國は伯耆。享保九年十月越前敦賀永建寺より進山し、十四年十二月二日現住申遷化した。

ダイヨウジ 大用寺 鳳至郡小泉に在つて、曹洞宗に屬し、天正五年正祝の創立とし、前田利家より五十俵の地を賜はつた。又天正五年同郡廣瀬村覺皇院八代彩顔の建立と書いたものもあるから、正祝と彩顔とは同人であらう。大用寺は今廢せられて存せぬ。

ダイヨウジュンキヨウ 大養淳享 曹洞宗の僧。能登の人。總持寺に出世し、次いで能登の龍護寺十七代、信濃の靈松寺に歴住した。

タイヨウボンセイ 太容梵清 曹洞宗の僧。薩摩の人、島津氏。州の福昌寺開祖石屋に剃度せられ、應永廿三年丹波須知に玉雲寺を創め、次いで加賀の佛陀寺に移り、廿九年能登の總持寺に轉じた。その著太容禪師語録は一に玉雲開祖太容和尚語録ともいふが、内容は總持寺に於ける語録である。

タイヨウレキ 太陽曆 明治五年十一月二十日石川縣權令内田政風は管内に令し、十二

月三日を以て明治六年一月一日と定め、後太陽曆に従うて一年を三百六十五日十二月となし、四年毎の二月に閏一日を置き、一日の時刻を晝夜平分廿四時に定め、又從來時辰儀の時刻を何字と稱したるを何時に改めしめた。以上は皆本年十一月九日御下賜の詔書及び太政官の布告に據つたものである。

タイリユウイン 太龍院 富山藩主第四代前田利隆の法號。詳しくは太龍院惠天日治大居士。

ダイリユウジ 大龍寺 鳳至郡中居南にあつて、曹洞宗に屬する。山號は臥雲山。慶長三年大透圭徐開基。初は同郡川尻に在つた。

ダイリヨウ 大領 能美郡苗代郷に屬する部落。王朝の時郡司の居た所であらう。慶長五年八月淺井駿の役に長氏諸士の戦歿したはこの領内であつた。↓アサキナハテ 淺井駿。

タイリヨウイン 太梁院 加賀藩主第十一代前田治脩の法號。詳しくは太梁院俊山徳英大居士。

タイリヨウコウネンブ 太梁公年譜 一册。前田治脩の延享二年正月誕生から、安永八年十二月までの年譜である。

タイリヨウジ 諱了寺 石川郡石立に在つて、眞宗東派に屬する。もと道場であつたが、明治十一年八月寺號の公稱を許された。

ダイリヨウノ 大領野 能美郡大領中の西南一帯の地を、往時は大領野といふた。三州奇談に、『此大領野の中、松の一村高き所あり。丹羽氏の母堂を火葬せし灰塚なり。此所希有なる木魂あり。東北の間に向ひて呼ぶ時は、暫くして前後二度の答をなす。いづくの所にか響くなるべき。近くこたへ来るなり。』とある。

タイレイイン 太嶺院 織田信孝の女で前田利常に養はれ、青山吉隆夫人となつたものの法號。詳しくは太嶺院松岩貞壽大姉。

ダイレンジ 大蓮寺 金澤野町に在つて、寶池山と號し、淨土宗に屬する。初め衍蓮社廣譽惣白は七尾西光寺に居たが、慶長九年小塚淡路の請に應じて金澤に來り、御厩町に之を建てた。其の後命に依り地黃煎町に移り、更に今の地へ移つた。

ダイレンジ 大蓮寺 羽咋郡敷波に在つて、日蓮宗に屬し、寛永元年日受の建立である。

ダイレンジ 大蓮寺 鳳至郡甲に在つて、曹洞宗に屬する。天正二年前波の洞光寺十三代財山文嘉の開山といふ。

ダイロ 大鹵 ↓オホヒ 大樋。頭の兼職であつた。初め本多安房守政重・横山山城守長知が當職であつたが、これは前田利常時代に命ぜられたものらしい。正保年中二人卒し、その後本多安房政長・長九郎左衛門連頼・横山左衛門忠次が勤めた。連頼は寛文十一年、忠次は延寶八年に死し、貞享三年には前田對馬孝貞・奥村壹岐府職・奥村伊豫時成及び本多政長四人であつた。元祿四年重ねて叙爵初り、八年長大隅守尙連叙爵せられ、